

L04a 美星スペースガードセンターにおける地球接近小惑星検出追跡観測

浅見敦夫、David Asher、橋本就安、磯部しゅう三、西山広太、大島良明、寺園淳也、浦田武、吉川真（日本スペースガード協会）、横田孝夫（日本宇宙フォーラム）

岡山県美星町に建設された「美星スペースガードセンター（BSGC）」は、地球に接近する小惑星と地球の周りのスペースデブリを専門に観測する施設である。観測は、2000年の初頭からテスト観測として開始されている。ここでは、現在までの小惑星の観測状況について報告する。

BSGCでの観測は、本格運用になれば口径1mと50cmの2台の望遠鏡によって行われることになるが、現在はまだ試験観測として主に口径25cmの望遠鏡を用いて行っている。従って、まだ当初予定していたほどは観測の効率が上がっていないが、2000年末の時点で、4個の小惑星についてはすでに確定番号を取得している。また新発見の候補として仮番号を取得したものは90個に上る。特に、2000 UV13という仮番号を取得した小惑星は、アポロ型の特異小惑星で、その絶対等級がアポロ型では2番目に明るいものであったことは特筆すべきことである。このことは、未発見の大型の地球接近小惑星が、まだ存在しうることを示唆している。BSGCでは、発見観測だけでなくフォローアップの観測にも力を入れており、20個を超える地球接近小惑星についてフォローアップ観測を行っている。

主に口径25cmの望遠鏡を使った観測でこのような成果をあげてきており、現在、整備中の口径1mおよび50cmの望遠鏡が本格的に稼働し出せば、さらに多くのデータが取得できることが期待されている。

[美星スペースガードセンターは、日本宇宙フォーラム、宇宙開発事業団、日本スペースガード協会が協力して運用している施設です。また、観測のデータ処理には、中野主一氏に全面的な協力をいただいております。]